第８８号　2016 年 10 月 31 日

東日本大震災 復興･支援活動ニュースレター
カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

東北は、紅葉の見頃を迎え、季節も秋から冬へと移りつつあります。今回は、いわき教会チーム平・堂根が、被災者の方々と山形県へ日帰り旅に行かれた様子、第 27 回全ベース会議、第 40 回サポート会議が、福島県穴原温泉にて 1 泊 2 日で行われましたので、その会議の様子、そして、仙台教区サポートセンタースタッフ全員で石巻市を視察した様子をご紹介します。最後に、カリタス福岡・熊本支援センターについてのお知らせを含め、いくつかお知らせがございます。どうぞよろしくお願いいたします。

米沢歴史探訪と街歩きの旅

カトリックいわき教会 チーム平・堂根　佐々木三代子

この 10 月 3 日、大型台風 18 号の進路が心配される中、私たちチーム平・堂根サロンに集う津波被災地の薄磯・豊間団地からの方々、そしてまた、久之浜などの津波被災者の方々がお住まいの内郷砂子田団地からの方々と、平・堂根のメンバーの計 40 名は、一路、磐越道から米沢へと向かいました。

途中、バスのフロントガラスにかかる小雨を気にしながら、予定通り 3 時間余りで、目的地の上杉博物館に到着しました。

折しも、博物館では、特別展「伊達氏と上杉氏」が開催されており、上杉家ゆかりの珍しい国宝の金屏風から、発掘品の木簡、家紋入りの瓦まで、多数展示されており、ケースに顔を近づけて古文書に見入る方から、繰り返し流されるビデオの画面にくぎづけになる方まで、それぞれが歴史に興味をもたれ、熱心に見入っておいででした。

さて、見学を終え、記念撮影のために野外に出ますと、すでに陽光まぶしく汗ばむほどに気温は上がっていました。

上杉博物館前での集合写真

すまし顔のシャッターが幾度かきられた後、何はともあれ、一同空腹に。昼食へと風格ある明治の建物、上杉伯爵邸に落ち着きました。ほどなく、目にも美しく美味しい郷土料理のお膳が運ばれ、お食事にしばし舌つづみを打ち、ちょっぴり幸せなひとときになりました。

日頃、あの山間にポツンと建つコンクリートの団地に閉じこもり気味の生活を強いられている皆さまのこの日の表情は、むしろ活き活きと笑顔に満ち、文字通り思い思いの街歩きに繰り出しては、景色に目をやりながらコーヒーショップに休む方たちあり、米沢織のお店をのぞく方々あり、いくらか紅葉しかかった街路樹のむこうの青空を見上げながら、お一人お一人新たな空気に包まれたことでしょう。

昼食会場 上杉伯爵邸

皆で美味しい郷土料理を味わいました

帰路につく前、何年か前にもお邪魔した酒蔵に寄り、種々のお酒や梅酒の試飲に、おいしい粕漬けなどをいただき、ご家族へのお土産をうれしそうに買っている姿を見ながら、ほんの少しでも苦しいことを忘れ、楽しい思い出ができたのではないかと感じました。

私たちボランティアは、大震災前、米沢教会や殉教地を訪ねる旅として米沢を訪れておりましたが、今回の企画は、様々なご苦労を背負い続けていらっしゃる皆さまとともにあることを感じつつ、皆さまの肩の荷が少しでも軽くなって欲しいと願う、味わい深い旅となりました。

第 27 回全ベース会議　in 福島

仙台教区サポートセンター　濱山麻子

10 月 27 日～28 日、福島市の北西に位置する穴原温泉で、第 27 回全ベース会議と第 40 回サポート会議を開催しました。全ベース会議は、2~3 か月に一度、カリタスベース、CTVC、福島デスク、仙台教区サポートセンターのスタッフ（主にベース長）が集まり、活動状況の報告と話し合いを行っていますが、去年 9 月、日頃の活動現場を離れて、短い時間でもスタッフが疲れを癒せるように、と、初めて全スタッフを対象に、宮城蔵王に宿泊をして会議を行いました。「ゆっくりスタッフ間の交流ができて良かった」という感想があったことから、今年も開催することになりました。

どうしても都合がつかず欠席というベースやスタッフもありましたが、総勢 41 名の出席。初対面という人たちも少なくありませんでしたが、場所は違っても、ふだん被災地で活動をしている者同士、すぐに打ち解け、一日目はそれぞれの部屋や夕食の席で、お互いの活動やベースの様子をざっくばらんに話すことができました。

会議は二日目。今回は学びの機会にしようということで、2 つの研修を行いました。第一部は菊地功司教様による「カリタスの業ーカリタスジャパンの基本姿勢ー」。去年も同じテーマでお話をいただきましたが、「また聞きたい」「今年入ったスタッフにもぜひ聞いてほしい」という声があがっていました。教会の本質の一つとして「愛の業を行うこと」があり、それは教会の中だけではなく、社会全体に対して行われなければならないという基本から始まり、他の NGO 団体とカリタスが行っている支援との違いは何か、というお話では、「多くの支援団体は、災害から 3 カ月、6 カか月と期限が来れば去っていく『ウルトラマン型』。カリタスは、災害が起こる前、起きている間、起きた後にもずっとそこにあり続ける『ドラえもん型』」とユニークな説明があり、参加者から思わず笑いが起きました。環境問題のみならず、さまざまな要因によって人類は生存の危機に瀕しており、一つの問題にだけとらわれるのではなく、全体でとらえること、カリタスが目指すのは人間が尊厳をもって生きることができない状況を改善することなどが話され、また、カリタスアジアの集まりの様子を交え、カリタスの組織についてもお話しいただきました。

スタッフの中には信徒でない人も少なからずいますが、カリタスの理念を知り、ふだん働いている現場は小さなベースであっても、世界に広がっているカリタスの大きな輪の一部であることを感じられたのではないかと思います。

研修の第二部では、「セクシュアル・ハラスメントを防ぐために」と題して、宮城県で女性のカウンセリングを続けている田口京子さん(ウィメンズカウンセリング　いずみ代表）に、セクハラについての基本的なお話をしていただきました。ベースは日頃、ボランティアや地域の方、不特定多数の方々と接する場所、善意が集まる場所であり、何も起こるはずがない、起きないでほしいという思いでこれまで活動が続いてきていますが、実際に対応に困ってしまった、という経験をしたスタッフも多くいます。未然に防ぐため、また、何か起こってしまった時にスムーズに対応するため、今回の研修を設定しました。セクハラはどこでも起こりうること、もし身近なところで起こった時には、まずは被害者の気持ちを受け止めること、周囲の無理解が被害者を苦しめるので、被害者を孤立させない、加害者個人の問題で終わらせないように、というお話をいただきました。後半には、「ベース内で、ボランティアから相談を受けたら」という設定で、実際に自分がどう行動すればよいかについて、少人数のグループに分かれて意見交換を行いました。

第二部の研修が行われている間、別室にて第 40 回サポート会議が行われ、来年も引き続き年４回のペース、元寺小路教会での開催が決まりました（全ベース会議も同日開催)。昼食をはさみ、短い時間でしたが全員そろって各ベースの近況報告と情報交換を行いました。大槌ベースからは、台風 10 号により訪問先の仮設住宅に大きな被害が出たことが報告されました。

二日間、なかなか顔を合わせることのないスタッフ同士で、ゆとりをもって話せる機会が持てた点では、有意義な会議になったのではと感じました。

菊地司教様のユーモアを交えながらのお話に、皆さん聴き入っていました

被災地へ足を運ぶ大切さ

仙台教区サポートセンター　鈴木玉恵

カリタス石巻ベースでは、ボランティアに来てくださった方を対象に、活動時間に余裕のある時には、被災地ツアーを行っています。以前から、仙台教区サポートセンター（以下、サポートセンター）スタッフの中から、その被災地ツアーを一度体験してみたいという声がありましたが、なかなかスタッフ全員が一緒にという機会がありませんでした。そこで、10 月 22 日、仙台の事務所を一日閉めて、サポートセンタースタッフ全員で、カリタス石巻ベースのご協力のもと、中村ベース長に案内をしていただき、被災地視察ツアーを実施しました。また、視察後は、石巻ベーススタッフとサポートセンタースタッフ全員で、話し合いの場を設け、有意義な時間をもつことができました。

今回の被災地視察ツアーでは、日和山公園→門脇・南浜地区「がんばろう！石巻」→女川町→雄勝→旧大川小学校の順に巡りました。

まず、日和山公園から石巻湾方面の門脇地区を望むと、今年２月時点では、まだ半分も建設されていなかった復興公営住宅が、ほぼ完成し、以前見えていた寺院の建物は、ほんの少し屋根が見えるほどになっていました。

日和山公園からみた門脇地区
～復興住宅完成までの様子～
左上 2015 年 9 月 27 日撮影
右上 2016 年 2 月 22 日撮影
左下 2016 年 10 月 22 日撮影

次に、実際に南浜地区（南浜町、門脇町）を車で通ると、以前はなかった細い道路が作られていたり、つい数日前まで通れていたという道路が通行止めになっていたりと、被災地は時々刻々と変化していることを実感しました。

震災発生時、この南浜地区では、地震発生から約 1 時間後に時速 50 ㎞ほどの速さで津波が襲来し、あっという間に地区全体が津波にのみ込まれ、その後の火災発生･延焼により、死者・行方不明者合わせて 400 人余り（石巻市全体の犠牲者の 11%強）の方々が犠牲となりました。今回の震災は、「地震」「津波」「火災」「地盤沈下」という複合災害といわれていますが、この地区は、その全ての被災地となり、被災直後は､あたり一面無数のがれきで覆い尽くされ､日和山の麓は、燃え広がった火災により、焼けたがれきや錆びた車両がいたるところに放置されていたそうです。現在、辺りを見回した際、その被災の傷跡を残すものは、旧門脇小学校の校舎だけのように感じました。

逆に目にとまったものは、先ほど日和山公園から見えた復興住宅の工事現場です。門脇東復興住宅は、10 月 29 日から入居開始予定のため、ほぼ完成し、周辺の最終調整のような工事が行われているところでした。少し離れた場所にある門脇西復興住宅も、12 月入居開始のようで、あと少しのところまできているのかな？という感じがしました。そして、復興住宅の隣には、ガラス張りの綺麗で立派な集会所もあり、新たな町が作られている感じを受けました。

一方で、周辺に商店が１つもないことから、街として発展していくためには、まだ時間がかかり、それまでの間は、買い物などの日常生活が大変不便だろうという印象を受けました。

「がんばろう！石巻」そばにある
津波浸水深 6.9 メートルの表示

その後、「がんばろう！石巻」の看板が、今年４月に移設された場所を訪れ、そばにある「南浜つなぐ館」で、震災前の周辺地域の模型を見ながら、スタッフからこれまでのお話と、今後この地域がどのようになっていく予定なのかを聞くことができました。震災時、6.9 メートル（建物２階より上）の高さの津波が襲い、かさ上げ工事が行われないこの南浜地域は、居住用の建築物が建築できない災害危険区域とされ､今後､約 38.8ha の追悼と伝承の祈念公園や市民活動エリアとなるそうです。

南浜地区を後にし、石巻魚市場や戸建て復興住宅が建ち並ぶ地域を通りながら、女川町へと移動しました。途中、７メートルもの高さの防潮堤があり、その上に立ってみました。道路からは全く見えない海が、ほんのすぐそばにあることを知り、海が見えないことに対して不安を感じるとともに、街と海を隔てている防潮堤が何メートルも続いている光景に、人と自然は共存できないのだろうかという思いに駆られました。

女川町へ入ると、至るところでかさ上げ工事が行われており、茶色いむき出しの土地や工事用重機ばかりが目につきました。高台にある

女川町地域医療センター（以下、地域医療センター）の駐車場に車を停め、地域医療センターの建物へ向かうと、外の柱に、「津波到達高１階床より 1.95m」という表示がありました。

皆さんは、この地域医療センター（被災当時は女川町立病院）が海抜何メートルの場所にあると思われますか？海抜 16 メートルの高さに建つ建物なのです。女川港をすぐ目の前に見下ろせる場所ですが、震災発生時、この建物１階に立つ人が、すっぽり隠れてしまうほどの津波が押し寄せることを想像できた人がいたでしょうか？ここに避難すれば大丈夫と誰もが思っていたのではないか…と思いました。

ちなみに、この地域医療センターは、スイス財団、スイス赤十字、カリタス・スイスとドイツが総額 20 億円近い資金を寄付したことにより、2012 年４月という早い段階で、再建されました。

（左）石巻市にある高さ 7m の防潮堤
（右）女川町地域医療センター入口にある記念プレート
カリタススイス・カリタスドイツの名称も刻まれていた

次に、女川駅前にぎわい拠点とよばれる場所へ足を運びました。こちらは、地域医療センターからの景色とは一変し、新しい女川駅やテナント型商店街、交流館など、木の温かみが感じられる建物が建ち並んでいました。お天気も良かったため、町外から訪れている人の姿も多く見られました。ただ、女川町は、復興住宅の整備が 36.5%しか進んでいないことから、この施設を平日利用する方がどのくらいいるのだろうかと考えずにはいられませんでした。

女川町で中村ベース長と一旦別れ、雄勝へと向かい、雄勝の仮設商店街で昼食を取った後、最後の視察場所、旧大川小学校へ向かいました。旧大川小学校では、テレビカメラをもった報道陣が数グループおり、不思議に思いましたが、翌週水曜日が大川小学校をめぐる訴訟の判決日のため、取材の方々が多く訪れていたようです。

震災前の大川小学校及びその周辺の様子（インターネットより）

震災後の様子　学校の建物と山以外、なにもない景色となっていた

旧大川小学校周辺は、そばに山や北上川が流れている以外、何もないまっさらな土地が広がっているだけでした。今は、痛々しい姿でポツンと被災した校舎だけが存在していることに、なんとも言えない思いでした。ほんのすぐそばにある木々が生い茂る山に、たった１本でも避難道が整備されていれば…と思わずにはいられませんでした。

旧大川小学校は、すぐそばを大きな北上川が流れていますが、海からの直線距離は約４㎞、海が目の前に見える場所ではありません。それぞれの自宅から４㎞という距離を考えた場合、意外に遠い場所だと感じるのではないでしょうか？大川小学校の生徒を含め、この地で多くのいのちが失われたという悲劇が、他の地域などで繰り返されないよう、どうしていくべきかを考えることが大切だと強く感じました。

震災を体験した私たちであっても、震災当時の記憶が、徐々に薄れてきていることは、確かです。全体を通して、工事の規模からいえば、進んでいるとは言え、復興には、まだまだの感がしました。さらに、その工事範囲の広大さに、津波被害がいかにひどく、大きなものであったかを改めて実感しました。

今回、視察を行ったことによって、改めて震災について考える時間を持ち、忘れてはならないという思いと、「百聞は一見にしかず」を強く感じました。そして、ぜひ多くの方に、被災地へ足を運んでいただき、見て知って感じることで、震災・防災について考えるきっかけにしていただければと思っています。

お知らせ

《カリタス福岡・熊本支援センター（くまセン）について》

カリタス福岡・熊本支援センター（くまセン）は、９月末をもって宿泊ボランティアの受付を終了いたしました。

ただし、被災地では今も支援を必要としております。募集範囲、活動日など、各自治体毎に異なっておりますので、ボランティア活動への参加をご希望の方は、各自、それぞれの社会福祉協議会にお問い合わせくださいますようお願いいたします。

※全国からのボランティアを募集しているのは、熊本市、西原村、益城町の３市町村です。全体的にニーズが少なくなっているようで、11 月末を目処に活動を終了する場所もあるようですので、各ボランティアセンターの情報にご注意ください。

《CTVC カリタス原町ベースについて》

CTVC カリタス原町ベースでは、現在、カトリック原町教会敷地内に、ボランティア宿泊場所を含めたベース拠点を新築工事中です。12 月中旬に完成予定となっておりますので、新しい住所など、詳しい内容が分かり次第、改めてお知らせさせていただきます。

（CTVC かわらばん！2016 年 11 月号に工事の様子が紹介されています。）

《台風 10 号によるカトリック久慈教会の被害状況について》

台風 10 号により、カトリック久慈教会は、敷地内に 2m、建物内は、床上 1m40 ㎝の浸水被害となりました。教会の建物は半壊となったため、今後、壁面と床面の張替などの改修工事を行い、同敷地内にある旧幼稚園の建物は、取り壊すことになります。また、教会内の備品は、洗浄した椅子以外は、全て新規に購入しなければならない状態です。

募金の呼びかけなどは特段、行っておりませんが、ご支援いただける場合には、仙台教区本部事務局へお問い合わせください。

（カトリック仙台教区報 No.232 に詳細が載っています。）

《東日本大震災復興支援カレンダーについて》

いつも活動へのご支援・ご協力をいただきまして、ありがとうございます。今年も残すところあと２ヵ月となりました。この３年間、仙台教区サポートセンターでは、東日本大震災復興支援カレンダーを作成し、ご寄附を募ってまいりました。昨年は今頃の時期からお知らせをしておりましたが、来年３月はじまりのカレンダーにつきましては、現在のところ作成予定がはございません。

毎年カレンダーを楽しみにしてくださっていた皆さまには、大変申し訳ございませんが、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

熊本地震支援金、東日本大震災に対する募金の受付は、現在も、引き続き行っております。

今後とも、多くの皆さまのご支援・ご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

ニュースレターのメール配信をご希望の方は、お名前などをご記入の上、ｓｄｓｃｋｏｈｏ@ｇｍａｉｌ．ｃｏｍまでメールをお送りください。
次号よりお送りさせていただきます。多くの方に活動状況や被災地の現状を広めていただけますようお願いいたします。